

中央町商店街

(中央町商店街振興組合)

高知県土佐清水市中央町

地域資源を活かして賑わいを創出 商業者間連携による商店街活性化



取組の背景

進む人口減少と少子高齢化 地産外商の取組に挑戦

過疎地域における無店舗集落の増加が想定される土佐清水市において、中心商店街である同商店街が、市民の生活を支える商業機能を継続させることが、経済を維持・発展させる条件となっている。しかし、人口減少・少子高齢化は急速に進行しており、既存商圈内のみをターゲットにしている、商店街の維持・活性化は望めない。

そこで観光客を新たなターゲットに選定。「商店街振興計画」を実行することにより、観光客の来街を促進し、地産外商の取組を進め、商店街の再活性化や個店の経営改善を目指すこととなった。たとえば、空き店舗を積極的に活用した出店の促進や「清水まちの魚市」の開催などにより、味と鮮度において、県内随一と評される鮮魚を商店街で食してもらう仕組づくりを行っている。

コロナ禍においては、まずは各個店で感染症対策の徹底

を図っているが、収益が減少するなかで対策を講じる費用負担が課題。より一層商店街の連携を強化し、国・県・市の施策を活用するなど対応策を明確にし、早期に感染症対策を実行する必要がある。

また、営業時間短縮などによる売上減少やウイズコロナの観点から、新たな事業展開の検討が不可欠な状況。新たな事業展開として、「Go To商店街事業」に申請し、キャッシュレス決済・ポイント還元事業に着手することで、コロナ禍での新たな販促による窮状打破を図っている。



さばいば 中央町チャレンジショップ

取組の内容

商業者間連携の相互扶助 地域資源を活かしたPR

地元住民の生活を支えるため、直販市場である「えぶりでいキッチン」では鮮魚をはじめとする生鮮食料品を1日約250人の生産者が生鮮食料品等を持ち込み、販売体制を整えている。また、「えぶりでいキッチン」を拠点とし、高知市中心商店街と同商店街を含む中山間地域の店舗などが、互いに望む商品を融通し合うことで、地元住民の利便性の向上や観光客に対する地産外商を目指す「商業者間連携事業」を実施した。

県内随一の味と鮮度を誇る鮮魚を、地元住民だけでなく観光客にも食べてもらえる仕組づくりのため、飲食店設備を完備したチャレンジショップを開設。また、県の補助事業の活用により空き店舗で昼間営業する飲食店の新規出店を促進している。

2018年度には観光客の来街を促進するための商店街振興計画を策定。郷土の偉人「ジョン万次郎」をテーマにしたイベントや、特産品である「宗田節」を用いた飲食イベントなどを実施している。

直近では、「Go To商店街事業」を活用し、地域資源である「魚」をPRするイベントの実施や地域電子通貨「Meji-ca」を活用したキャッシュレス決済、ポイント還元事業の推進を図る予定であったが、緊急事態宣言発令の影響を受け、やむなく中止せざるを得ない状況となった。

しかしながら、取組に際し、長い月日をかけ周到な準備を積み重ね、また、商店街振興計画のアクションプランに沿った取組であることから、今後は、コロナの収束状況を見極めながら、早期に取組を実行し、地元住民や観光客の呼び込みに繋げ、集客力の向上を図り、「えぶりでいキッチン」との相乗効果により、商店街のにぎわいづくりにつなげていきたいと考えている。



清水まちの魚市

新型コロナウイルス感染症対策としては、同商店街が先導して他商店街と連携。高知県地域商業再起支援事業費補助

金を活用して、より効果が高い設備の導入などを図るとともに、商店街全体の意識の醸成につなげた。

取組の成果

地元住民のニーズを把握
売上・知名度向上に寄与

「商業者間連携事業」の実施によって以下の3つの成果があがっている。

- ①地元住民が、県央地域である高知市中心部で販売されている商品を購入することが可能となり、地元住民が必要としている商品や情報を把握することができた。

- ②観光客に対して高知県全体の「土産物」を販売する仕組みが構築できた。

- ③地元特有の生鮮食料品などを高知市内の消費者へ売り出すことで、売上増加のみならず、地元産品の知名度向上につながった。

今後は年間の来街者数を7%増加させることを目標にさまざまな取組に着手していく。

実施体制

商店街の実施体制としては、商店街振興計画策定・実行のための「土佐清水市まちづくり検討・実施会」を発足し、理事長を中心に会員が一丸となって対応している。また、チャレンジショップの開設・運営や商業者間連携事業、土曜夜市や清水まちの魚市などの各

種イベント実施の対応を行っている。

今後は、地域資源である「魚」をPRするイベントの実施や地域電子通貨「Meji-ca」を活用したキャッシュレス決済、ポイント還元事業を取り入れるなど個店の魅力向上を図る予定。

キーパーソンからのコメント

コロナ禍を生き抜き商店街の持続・継承・活性化を

2020年は日本にとってオリンピックが開催されるなど、光り輝く年になると考えていましたが、一転、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、これまで経験をしたことのない非常事態の1年となりました。当市の基幹産業である漁業と観光も大きなダメージを受けるなか、我が中央町商店街でもコロナの影響を受けて、40年以上続けてきた土曜夜市や清水まち

の魚市等のイベントは、自粛・中止となりました。三密を避けるなど新たな生活様式により人々の生活のあり方が大きく変わるなかで、これまでの地元密着型の商売と土佐清水ならではの商品を商店街発信で外販・販路拡大していくために、各個店の努力と商店街の連携を高め、コロナ禍を生き抜ける持続・継承・活性化を目指します。



中央町商店街振興組合 青年部長 児島祐二

商店街の概要

1983年9月5日に設立された同商店街は、高知県西南部に位置する土佐清水市の中心市街地にある南北約70m、東西約200mの土佐清水市唯一の商店街振興組合である。商店街の中心部には、しみずみらい合同会社が運営する「えぶりでいキッチン」があり、地元住民の生活を支える生鮮食料品の販売や、域外から仕入れた「高知県産の土産物」を取扱い、1日のレジ通過数が300を超える商店街の拠点店舗となっている。近隣には、足摺岬や竜串といった観光・レジャースポットがあり、マリンスポーツや釣りなど、年間約65万人の観光客が同市を訪れている。

所在地 高知県土佐清水市中央町
人口 約1万3千人(土佐清水市)
電話 0880-82-0202
FAX 0880-82-4647

URL なし
会員数 16名
店舗数 26店舗(小売業11店、飲食業10店、サービス業5店)

商店街の類型 単独型
主な客層 高齢者、主婦
／70歳代以上、60歳代